

## 熱媒体油用コイル

■機能 熱風発生用

■熱媒体 サーモオイル

■用途 熱媒体油用コイルは産業用機械分野において各種工業製品の材料や生産工程での乾燥を目的に高温域での熱風発生用として幅広く採用されています。

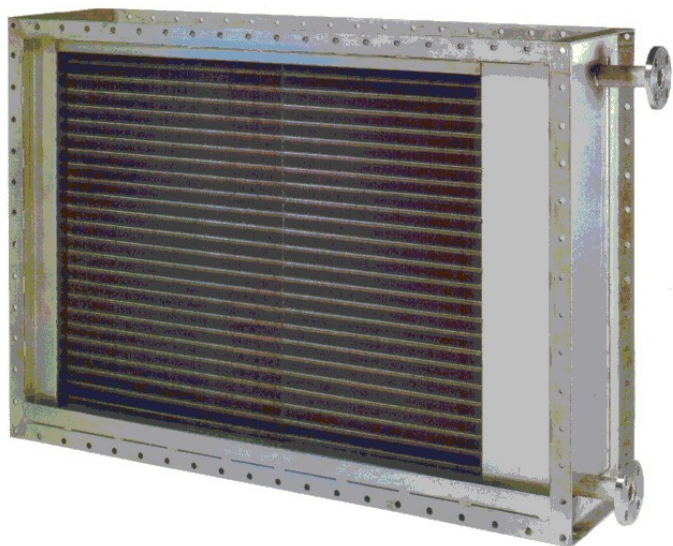
■エレメント素材

(チューブ) 鋼管 (SGP, STPG, STB)  
ステンレス管  
(SUS304, 304L, 316, 316L)

(フィン) 鋼フィン (亜鉛鍍金鋼板)  
SUSフィン

■標準仕様

1. チューブ 17.3mm (10A SGP)
2. フィン 0.28t 鋼フィン
3. フィンピッチ 3mm、3.5mm
4. 列数 4R~10R
5. 段数 4~36段
6. 有効長 2800mmまで



■熱媒ヒータの設計に際し下記事項をご指示頂ければコンピュータにより即座に仕様をご提案申し上げます。

1. 風量  $\text{m}^3/\text{min}$  又は  $\text{m}^3/\text{h}$
2. 入口空気温度  $^{\circ}\text{C}$
3. 出口空気温度  $^{\circ}\text{C}$
4. 使用熱媒体油のメーカー及び品名
5. 熱媒体油流量  $\ell/\text{min}$  又は  $\text{m}^3/\text{h}$
6. 熱媒温度  $^{\circ}\text{C}$
7. エレメント材質
8. 気密型又は非気密型の別

■熱媒コイルの設置並びに取扱い上の注意事項

- ①配管は全てコイルとは別個に支持し、膨張・収縮によるひずみを吸収するため配管支持部にはスウィング・ジョイントを用いるなどの配慮をお願いします。硬直な配管連結は重大な損傷を起こす原因となります。
- ②コイルはチューブが床面と水平となるよう設置して下さい。熱媒コイルは堅管式では使用できません。
- ③バルブ及びパッキンは熱媒体油用を使用して下さい。
- ④エア抜きは充分行なって下さい。
- ⑤コイル表面が汚れてくると放熱能力が低下します。圧縮空気、水、蒸気等により洗浄して下さい。
- ⑥運転中及び停止直後はエレメント部分はもちろんケーシングも高温になっています。火傷に注意願います。